

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月14日

【評価実施概要】

事業所番号	0174100933		
法人名	有限会社 グッドウィル		
事業所名	グループホーム 武佐の杜		
所在地	北海道釧路市武佐1丁目9番24号 (電話) 0154-46-2626		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成22年3月5日	評価確定日	平成22年4月7日

【情報提供票より】(平成22年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)17年12月8日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	23人	常勤	16人, 非常勤 7人, 常勤換算 11.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	16,000円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200円	

(4) 利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	17名	男性	3名	女性	14名
要介護1	5名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 78歳	最低	57歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	遠矢クリニック、伊藤隆志歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者を中心に職員全員が利用者本位に親しみながらいきいきとした生活が出来るよう取り組んでおり、レクリエーション・棒体操・嚙下体操など介護予防にも力を入れています。ホーム内で町内会主催の「いきいきサロン」を継続して開催しており、うどん打ちや団子づくり、ダンスなどを利用者が参加しながら交流を深めています。又、ホームだよりの「武佐の杜かわら版」にて告知してホーム行事に参加して戴くと共に、転倒予防教室や盆踊り大会などの地域の行事に積極的に参加して交流を図っています。町内会長をはじめ婦人部の方からの提案で地域の方々が参加した避難・消火訓練を実施しており、災害時には地域と連携した連絡網が構築されており信頼関係が築かれています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善点については、離設した利用者の捜索協力して戴けるような関係作りを検討している点でしたが、運営推進会議や地域行事、いきいきサロンを通じて利用者やホームを理解して貰い、更に町内会との連携も強化されています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価はケアを振り返る機会と捉え職員全員に配布し、最後に管理者がまとめて作成しています。又、評価結果は、真摯に受け止め改善に向けて職員全員で話し合い取り組んでおり、自己評価・外部評価表はいつでも気軽に見れるように入口の近くに掲示しています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、年6回実施されています。主な議題については リスクマネジメントの研修報告 いきいきサロン 利用者の生活状況報告 ホーム行事への感想や意見交換 行事の実施報告
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 毎月、ホーム通信の「武佐の杜かわら版」で利用者の日頃の暮らしぶりや行事の様子、職員の異動などを写真入りで掲載し、金銭出納についても報告されており、状態変化時はその都度電話で詳細に報告しています。毎年の家族会や定期的開催されている運営推進会議の場で家族が外部者へ意見、不満、苦情等を表せる機会を設け、それらを運営に反映させています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームで町内会や町内の女性部と「いきいきサロン」を開催し、うどん打ちやダンスなど利用者も参加しながら地域の方々との交流を深め、転倒予防教室や町内会の盆踊り大会などの地域の行事に積極的に参加しています。ホーム便りに町内会長のコラムを掲載し、町内会と連携して避難訓練を実施し、災害時には地域に向けた連絡網が構築され協力関係が築かれています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境と地域の方々との交流の下、地域に密着した理念を掲げ、利用者がその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々、状態が変化していく利用者に対して、今のその人らしさを大切に理念に沿ったケアが出来ているかを職員同士やフロア会議などで話し合い職員全員で共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームで町内会や町内の女性部と「いきいきサロン」を開催し、うどん打ちや団子作り、ダンスなどを利用者と一緒にしながら地域の方々との交流を深めている。又、転倒予防教室や町内会の盆踊り大会などの地域の行事に積極的に参加している。		ホーム便り「武佐の杜かわら版」には町内会長のコラムを掲載している。又、町内会や女性部と連携して避難・消火訓練を実施し、災害時には地域に向けた連絡網が構築されており協力関係が築かれている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はケアを振り返る機会と捉え職員全員に配布し、最後に管理者がまとめて作成している。又、評価結果は、真摯に受け止め改善に向けて職員全員で話し合い取り組んでおり、自己評価・外部評価表はいつでも気軽に見れるように入口の近くに掲示している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回実施されている。メンバーは家族会会長・民生委員・包括支援センター・ホーム長・事務長・介護支援専門員・職員が参加し、研修の報告会やホーム行事を兼ねて開催しており、会議を通して地域との連携が図られている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の包括支援センターには、毎月発行している「武佐の杜かわら版」を届け、利用者の日常の様子などを伝え、相談や助言を戴いている。又、必要時に市の担当者とも連絡を取り合い相談や助言を戴き、サービスの質の向上に活かしている。		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム通信の「武佐の杜かわら版」で利用者の日頃の暮らしぶりや行事の様子、職員の異動などを写真入りで掲載し、金銭出納についても毎月、報告している。又、状態が変化した時や受診の結果などについては、その都度電話で詳細に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年の家族会や定期的に行われている運営推進会議の場で家族が外部者へ意見、不満、苦情等を表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。又、来訪時には気軽に話せる雰囲気作りを職員全員で心掛けている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は離職者をなるべく出さないように職員の思いを聞くなどの取り組みを行い、やむなく離職した場合には職員に時折顔を出して貰うようにして利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会での様々な研修や他のグループホームとの交換研修にも参加しており、参加した職員には報告書を提出して貰い、会議の際に行けなかった職員に対して研修報告が行われている。又、ホーム内でも定期的に勉強会を開催しケアの質の向上に取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会での様々な研修や勉強会、交換研修などを通じて交流する機会を持ち、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者には家族と共に利用前に見学をして戴く機会を作り、ホームの生活や雰囲気を感じて貰うように一緒にお茶を飲んだりお話ししながら雰囲気に馴染めるよう取り組んでいる。又、お試し利用なども実施しながら職員や他の利用者、場の雰囲気に徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの今できることを把握し、食事の準備・後片付け・掃除・洗濯物干し・縫い物などを一緒に行い、畑作業や花壇の手入れなどの知識を教わりながら、本人が生き生きと生活出来るようお互い支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式を活用し、生活歴、習慣、好みを家族からの情報や日常生活での表情や会話の中から一人ひとりの希望、意向の把握に努め、散歩、買い物、外食、パークゴルフ、銭湯などの支援を行っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護支援専門員の適切な監理の下、日常の会話や本人や家族からの希望や意向を踏まえ、担当者が中心となって介護計画案を立て、カンファレンスで全職員からの意見を介護計画書に反映させている。又、職員は介護計画に添ったケアを意識し、介護計画書の内容の記録は色分けし確認しやすいように記入している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は定期的に評価と見直しが行われている。又、利用者の状態変化に応じて期間終了前であっても都度、現状に即した介護計画の見直しが行われている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>地域の介護予防サークルへの参加、散歩や買い物など本人の希望に添えるように柔軟に対応している。又、ホームを町内のいきいきサロンの会場として提供し、うどん打ちやダンスなど利用者が一緒に参加して行われている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員として看護師も配置され24時間相談可能な体制になっている。又、利用者それぞれのかかりつけ医があり、相談・助言を受けている。往診や医療の訪問看護などもあり体調不良時などには連絡をとりながら適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けた指針については家族会で話し合われており、ホームで対応出来る限界を本人・ご家族と早い段階から話し合い、出来る限り希望に添えるように支援しており、医療機関とも相談し指示を受け職員全員で方針を共有しようとしている。		看とりの指針を作成して、家族から同意書を貰っているが、今後、緊急に医療機関で同意が必要な治療が発生する場合を想定して、すぐに連絡が取れない家族から事前に細部に渡った内容の確認書を作成し、同意を戴いている。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の自尊心を傷つけないように言葉かけや介助を心掛け、プライバシーや羞恥心の配慮にも十分に注意して支援している。又、記録等の個人情報の取り扱いについても、十分に注意して取り扱っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや習慣、その日の体調や希望に合わせ、買い物や散歩、外食やドライブなど外出支援をしている。又、食事の準備や後片付け、入浴の長さや習慣、レクリエーションへの参加など本人の希望やペースに沿って柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	センター方式で本人の嗜好を把握し、日常の会話でその日に食べたいものなどを聞き、献立に反映させている。食事の準備、下膳、食器洗い、後片づけなど本人の力を活かしながら一緒に行っている。又、大型店商業施設への外食ツアーや鶴ヶ岱公園での焼き肉会など外食をする機会も作っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は基本的に決めているが希望があればいつでも入浴出来るようにしている。又、一人ひとりの希望に合わせて湯加減や入浴時間にも対応し、入浴中に一緒に歌を歌ったり、大きなお風呂の好きな方には銭湯に行くなど入浴を楽しめるように柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の食事のメニュー書きや案内文書の添削、食事の準備、後片付けなどの他、晴れた日にはご自分の布団を干す方など、それぞれの生活歴や今出来る事に応じて支援している。又、棒体操・転倒予防体操・嚙下体操などのアクティビティーも日課にしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人のその日の希望に添って、近くの公園への散歩や大型スーパーやコンビニへの買い物、動物園や摩周湖、別保公園へのドライブや散策など出来る限り希望に添って支援している。又、庭や畑作業、ベランダでの外気浴などなるべく戸外に出るよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。外出を希望する利用者には常に同行し、職員が見守りや安全面に十分な配慮を心掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は町内の方が参加して年2回、実技を伴う夜間を想定した訓練を実施している。又、ホーム内の緊急連絡網はもとより、緊急連絡先には町内の方にも入って戴き、災害時には駆けつけて戴ける体制ができている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりのその日の体調に合わせた食事を提供しており、きざみ食やおかゆ、食事量など柔軟に支援している。又、食事の摂取量、水分摂取量はしっかりと記載されており、献立は市の保健師からアドバイスを貰い作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居間には、畳みのスペースがあり、そこには、懐かしい茶単筍・ちゃぶ台・ステレオなどを置き、季節の花や手作りの飾り物などが飾られ生活感や季節感を採り入れた工夫がされ、テレビの音量や眩しい光が入らないように配慮している。又、広い廊下には椅子やテーブルが配置され一人になったり利用者同士談笑できるスペースが確保されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用前に使われていた馴染みの家具や冷蔵庫、机等、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。又、仏壇・位牌を持ってきたり方もいて、毎朝お霊供膳をあげる方もいる。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。